サンスクリット語文法ノート (1)

Grassmann の法則と Bartholomae の法則

松浦　高志

1　Grassmann の法則と Bartholomae の法則

サンスクリット語の有気子音に関する有名な音韻法則には，Hermann Grassmann (1809–77) が 1863 年に発見した法則と，Christian Bartholomae (1855–1925) が 1882 年に発見した法則がある[1].

Grassmann の法則（Grassmann's Law）は，「となりあった音節で二つの有気閉鎖音がとなりあっているとき，片方の有気閉鎖音で異化が起こり，対応する無気閉鎖音に変化する」と述べられる．たとえば √dhā「置き定める」の直説法現在 1 人称単数形は dádhāmi < *dhádhāmi になるが，これはもともととなりあった音節に含まれていた二つの dh のうち, はじめの *dh が異化（ほかの音素に変わること）を起こし，対応する無気閉鎖音である d に変わっているからである．Grassmann の法則はギリシア語でも適用されるが, むしろ独立の現象である可能性が高い．ギリシア語では一般に印欧祖語の有気有声音は，$*d^h > th$, $*g^h > kh$ のように無気無声音に変わって

[1] 本ノートは 2014 年 6 月 17 日の梶原三恵子先生の「印度語学印度文学演習 (1)」（東京大学文学部）での発表資料に加筆修正したものである．本ノートをはじめ本ブックレットに掲載されたノートはいずれも，前の回の授業時に生じた，主に文法上の疑問点を解決するために作成した発表資料にもとづく．梶原先生をはじめ, 授業に参加している方々からは数々の有益な助言をいただいた．もちろん誤りが残っていればすべて筆者の責任である．

いる．そのため，もし Grassmann の法則が印欧祖語の段階で適用されるならば，títhēmi「私は置き定める」は *díthēmi となっていた可能性が高いからである．

Bartholomae の法則（Bartholomae's Law）は一般に「インド・イラン語派において『有気有声音＋無声音』は『有声音＋有気有声音』に変わる」（$D^hT > DD^h$）と述べられる．

さて，√budh「目覚める」は，その印欧祖語の語根 *$b^heu̯d^h$- が二つの有気有声音を含むため上記の法則が適用されるが，単語の形態によりどの法則が適用されるかが異なるので注意する必要がある．

(1) PIE *$b^héu̯d^h$-e-ti > Skt. bódhati（Grassmann の法則）．

(2) PIE *b^hud^h-tó- > Skt. buddhá-（Grassmann の法則＋Bartholomae の法則）．

(1) の bódhati（能動態直説法現在 3 人称単数形）には Grassmann の法則のみが適用され，*b^h が b に変化している．一方 (2) の buddhá-（過去［受動］分詞）では Grassmann の法則が適用されるのに加えて Bartholomae の法則も適用され，語根末の *d^h に含まれる有気音が，これに続く *-to-（過去分詞をつくる接辞）に含まれる *t に移動している．*t はこれにより有気化し，さらに有声化することによって dh に変わっている．なお，印欧祖語の *eu̯ はサンスクリット語では o に，印欧祖語の *e はサンスクリット語では a になることに注意せよ．

2　サンスクリット語と印欧語の諸法則

Grassmann の法則は Grassmann, „Aspiraten“ で，Bartholomae の法則は Bartholomae, *Forschungen*, i.3–24 で述べられている．このように，ほかの印欧語にも関係する音韻法則を簡単に調べるときは，印欧祖語に関する教科書を見るのがよい．この二つの法則については，たとえば Fortson,

*Introduction*², 203–204, 210–211 を見よ.

さらに印欧語の諸法則について調べたいときは Collinge, *Laws* を見るとよい．またその補遺が Collinge, ‘Further’ に，さらにその補遺が Mayrhofer, „Ergänzendes“ にある.

凡例

***A**	A は想定形.
B > C	B は C に変化.
***u̯**	印欧祖語の子音化した *u（サンスクリット語の v に対応）.
PIE	Proto-Indo-European（印欧祖語）.
Skt.	Sanskrit（サンスクリット語）.

参考文献

Bartholomae, C., *Arische Forschungen* (Halle: Niemeyer, 1882–87).

Collinge, N. E., *The Laws of Indo-European* (Amsterdam: John Benjamins, 1985).

—— ‘Further Laws of Indo-European’, in: W. Winter (ed.), *On Languages and Language* (Berlin: Mouton, 1995), 27–52.

Fortson, B. W., IV, *Indo-European Language and Culture: An Introduction*² (Chichester: Wiley-Blackwell, 2010).

Grassmann, H., „Über die Aspiraten und ihr gleichzeitiges Vorhandensein im An- und Auslaute der Wurzeln“, *Zeitschrift für vergleichende Sprachwissenschaft*, 12 (1863), 81–138.

Mayhofer, M., „Zu Collinges ‚Laws of Indo-European‘ Ergänzendes und Kritisches“, *Die Sprache*, 45 (2005), 110–133.

Schmitt, R., ‘Bartholomae, Christian’, in: E. Yarshater (ed.), *Encyclopaedia Iranica* (London: Routledge, 1982–　), iii.832–836. `http://www.iranicaonline.org/`